

松平家史料展示室 企画展

しまだ ぼく せん おか くら しゅう すい
島田墨仙と岡倉秋水
- 近代福井の日本画家 -

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会場 松平家史料展示室
- 会期 令和元年8月28日(水)～10月8日(火)
- 休館日 9月24日(火)・25日(水)

島田墨仙と岡倉秋水は、ともに慶応3年(1867)福井藩士の子として福井城下に生まれました。それぞれ、時期は異なるものの、東京へ出た二人は近代日本画の祖であり指導者であった狩野芳崖や橋本雅邦に入門し、画家としての活動をスタートさせました。やがて二人は絵画教師として図画教育にたずさわりつつ、自らの作品も描き続けました。後に墨仙は歴史人物画の大家として活躍し、秋水は伝統的な主題と表現を守った作品を描きながら、師芳崖の顕彰活動に積極的にたずさわって芳崖の画業を広く伝えました。

本展では、岡倉天心をはじめとする近代日本画壇の中心人物たちと関わりながら、明治から昭和にかけて独自の活動を続けた二人の作品を紹介します。

島田墨仙 (慶応3年～昭和18年・1867～1943)

島田墨仙は福井藩士島田^{せっこく}雪谷の次男として福井城下に生まれました。父雪谷は絵を得意とし、墨仙は父から四条派を学びました。父の没後、一時福井で教壇に立っていた頃に洋画も学んでいます。その後明治29年(1896)に上京し、橋本雅邦に入門しました。墨仙は有職故実や漢籍を学び、中国の仙人や歴史上の人物を主な題材に選び、研究を土台にその人物の心情や精神性を描こうとしました。やがて墨仙は歴史人物画の大家として評価され、昭和18年(1943)、「山鹿素行先生」で日本画部門初の日本芸術院賞を受賞しました。



加藤清正像 島田墨仙筆 当館蔵



橋本左内像
島田墨仙筆 当館蔵



松樹下高士図 島田墨仙筆
越葵文庫 当館保管

慶応3年(1867)	福井藩士島田範左衛門(雪谷)の次男に生まれる(本名豊作、豊)。
明治9年(1876)頃	父から絵を学び始める。
明治18年(1885)	前年に父を亡くし、福井中学校で教員となる。以後市内学校で図画と習字を教える。
明治28年(1895)	第4回内国勸業博覧会に出品された橋本雅邦筆龍虎図、釈迦十六羅漢図を新聞で見て、雅邦への入門を志す。
明治29年(1896)	上京して、橋本雅邦に入門し、故実を川崎千虎に、漢籍と故実を信夫恕軒に学ぶ。
明治30年(1897)	日本絵画協会第3回絵画共進会に出品した「致城帰途」が銅賞を受賞し、1900年の巴里万国博覧会に出品される。以後展覧会への出展を重ねる。
明治31年(1898)	福島県第二尋常中学校で図画と習字を教える。以後福島県内で図画教員をつとめる。
明治39年(1906)	教職を辞して上京、作画活動に専念する。
明治41年(1908)	師雅邦死去。
明治43年(1910)	橋本左内肖像画の下絵を手がける。本画は昭和10年(1935)に完成。
大正11年(1922)	越前松平家18代当主松平康荘から明治神宮絵画館献納の「王政復古」の図制作を依頼される。故実調査等を経て昭和6年(1931)に完成し、奉納。
昭和18年(1943)	前年に新文展へ出品した「山鹿素行先生」で帝国芸術院賞を受ける。76歳で死去

岡倉秋水（慶応3年～昭和25年・1867～1950）

岡倉秋水は、近代日本画の指導者として知られる岡倉天心の甥で、福井に生まれ東京で育ちました。明治17年（1884）ごろ狩野芳崖に入門し、晩年の芳崖の主な弟子「芳崖四天王」の一人に数えられています。同21年に芳崖が没した後、東京美術学校へ入学しました。しかし、翌年には天心の指示により絵画教育にたずさわるため退学し、以後大正3年（1914）まで教壇に立ちました。秋水は自らの作品制作や図画教育の一方、芳崖の遺墨展覧会の開催や遺墨集の編集刊行をおこない、師芳崖の顕彰に大きな役割を果たしました。

慶応3年（1867）	岡倉天心の父岡倉覚右衛門の養子寛裕と天心の姉なかの子として福井に生まれる。幼少時に一家で東京へ出る。
明治17年ごろ（1884）	狩野芳崖に入門。後に岡不崩・本多天城・高屋肖哲とともに「芳崖四天王」と称される。
明治21年（1888）	師芳崖没する。
明治22年（1889）	東京美術学校へ第一期生として入学
明治23年（1890）	住友家が東京美術学校に委託した楠公銅像図案公募に応募し、採用される。（現在皇居外苑にある楠公銅像）東京美術学校を退学し、東京女子高等師範学校の毛筆画指導の教壇に明治27年までたつ。
明治24年（1891）	色彩入り毛筆画教科書『彩絵入門』を刊行する。この後も毛筆画教科書を編修刊行。
明治29年（1896）	学習院で図画の助教授となり、大正3年までつとめる。
明治34年（1901）	日月会を創立、作品を発表する。
明治44年（1911）	本多天城とともに『狩野芳崖遺墨帖』を出版。以後芳崖の作品集を刊行する。
大正12年（1923）	関東大震災後、京都に転居。後に東京へ戻る。
昭和25年（1950）	83歳で死去。



寿老人図 岡倉秋水筆
昭和24年（1949）
個人蔵 当館保管



四季山水図 岡倉秋水筆 昭和25年（1950） 個人蔵・当館保管

〔主要参考文献〕

「墨仙自叙伝（一）～（四）」『国画』第3巻第8号～11号 昭和18年

「岡倉秋水伝」岡倉日出夫『五浦論叢』16号 平成21年

『島田墨仙』展 福井県立美術館 平成23年

『狩野芳崖と四天王 - 近代日本画、もうひとつの水脈 -』 求龍堂 平成29年

【関連イベント】

ギャラリートーク

令和元年9月7日（土）・21日（土）・

10月5日（土）

いずれも14:00～14:40

次回の展示

企画展示室・松平家史料展示室

秋季特別展 「將軍家茂と皇女和宮

一行が彩った二人の幕末」

令和元年10月12日（土）～11月24日（日）

松平家史料展示室 展示解説シート No.125

令和元年8月28日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489

担当 藤原千穂

印刷 宮本印刷